基礎編課題①【名前：　　】

以下の質問に答えて、物語の最低限の要素を埋めてみましょう

質問１：どんなキャラクターが登場しますか？

鳥人の男…人が大嫌いな鳥人。 人間の少女…とある秘密をかかえて鳥人の島に迷い込んだ 人間の研究家…鳥人の研究を長年している。

質問２：どんな場所、世界、地域、組織が舞台ですか？

人外が存在するファンタジー世界。 人外の研究施設があるが、何が行われているかは謎。

質問３：物語はどんなふうに始まって、途中でどんな展開（事件、イベント）があって、どう終わりますか？

鳥人の男を助ける人間の少女。だがその後に少女は人外たちがいる島に遭難する。 鳥人の男と再会。けれど人間嫌いの彼にとことん嫌われる。 少女が助けてくれたと鳥人の男が知る。二人の仲が深まる。 研究家が島に来る。けれど研究は表の顔で、本当の目的は鳥人たちの殲滅だった。 鳥人の男と研究家が対峙。 鳥人の男への恋心に気づき、人間の少女は助けに向かう。けれど逆に怪我をする。 鳥人の男は怒り、暴走。けれど少女が止める。 研究家は違反行為により逮捕。少女は人間の世界に戻ることになるが、男とまた会うと約束してエンド。

講評

人間と人外との交流がしっかり出せれば素敵な物語になりそうです。

・鳥人の男はなぜ人間が嫌いなのでしょうか？　過去助けられた経験もありますし、嫌いになったエピソードも必要になります。

・少女は鳥人の男を好きになるようですが、男はどうなんでしょうか？　人間嫌いの設定もありますし、少女を通じて人間への印象がどう変わるのかを物語で見せていきたいです。

・研究家はなぜ鳥人たちの殲滅を目論んでいたのでしょうか？　彼がどこに属している人間なのかも気になりますが、そもそも人間が鳥人をどう思っているかを決める必要があります。

基礎編②【名前：　　】

時事ネタからあらすじを作ってみましょう

どんな時事ネタですか？

ナスカの地上絵、新たなものが見つかる。５０点以上。

あらすじ（物語がどう始まり、どう展開し、どう終わるかを文章で書く）

東京都内に謎の絵が出没。その絵は必ず誰かと関わりがあると噂される。 画家を目指す主人公は絵の謎を追っている。才能がないという周りを見返すため、絵の作者に話を聞くことを目的としていた。 高校生は絵の作者を目撃。だがそれは予知能力を持った幼女で、近いうちに主人公が死ぬと予言。回避するには幼女と共に予知を上書きできるほどの絵を描くことに。 絵を通して本当の絵の目的を知っていく主人公。 幼女の正体は余命幾ばくもなく、夜に病院から抜け出していた。主人公には自分の絵の技術を残したくて、わざと死ぬと予言。 主人公は己自身の誇りのために絵を描くと決める。幼女は亡くなるが、都内には例の絵が描かれていた。

講評

時事ネタからの発想が良いと思います。どのような形で絵があるのか（壁の落書きなのか、額縁が道端に置いてあるのか、スケッチブックが落ちているのかなど）にもよりますが、街中に不自然に絵がある光景は不思議でワクワクします。

その絵の謎ですが、もう少しファンタジックな要素を持たせてもいいかと思いました。現状、「誰かと関わりがある」という謎が未消化ですし、今のままだと説明もつけられないでしょう。そこをファンタジックな要素に任せ、現代ファンタジーにまとめるのが良いのではないでしょうか。

基礎編課題③【名前：　　】

800文字程度で文章を書いてみましょう。

シチュエーション「朝、慌ただしく教室に入ってくる高校生」

「ヤバいヤバいヤバい！」

閉じかけていた校門の隙間をすり抜け、天は校舎へと向かう。教育指導の先生が背後で何か言っているが、今の天にそれを聞く余裕はなかった。

「始業まであと三分か…って、はぁ？　三分！？　地球の自転おかしいんじゃないの！？」

正面玄関へ来ると、瞬時に靴を下駄箱に放り投げ、天は自分の上履きを廊下に投げる。そこに足を突っ込むと階段へと向かった。

べこべこと踵を踏んづけているが、何より今は前に進みたい。天はぐんと歯を食いしばって階段を上った。

「うおおおおお！」

一段、二段と段数を飛ばしていく。途中、スカートがめくれかけたがそれもご愛敬。どうせこの時間では見ている者など誰もいない。

自分の教室がある三階へと着き、廊下の突き当りを睨む。教室の位置は最も陽の光が当たる最奥の教室。優良物件だが遠いのはこういう時に辛い。

「間に合え！　間に合えー！」

後はただ走る。汗を垂らし、息を切らし、風を裂く。もはや女子高校生の顔ではなく、よく祖父母の家にある般若のような顔をしていた。

一番後ろの白い扉前に立つと同時に手をかける。そして一気に開いた。

「おはよう！」

周りの目など気にせず、天は勢いよく教室の中へと転がりこむ。するとクラスの何名かが驚いた眼で見ていた。

席についている生徒はまだ少ない。すると席に座っていた咲が座りながら、天が入ってきた扉を閉めた。

「おはよう。天」

「よっしゃ！　先生きてない！　セーフ！」

天は大げさに胸の前で腕を開き、何度もセーフと繰り返す。それを見ていた咲はやれやれと首を振った。

「あんね、セーフだけど余裕はもちなっての。これで抜き打ちテストとかやってたらどーすんの？」

コメントの追加 [na2]: ユーモアのあるセリフで良いです。

コメントの追加 [na1]: 三点リーダーは２つセットで使いましょう。

コメントの追加 [na5]: 「こちらを見ていた」とし、クラスメイトがどこを見たのかをはっきりさせましょう。

コメントの追加 [na3]: ・「よく」はこの文章の場合不要になります。家に常時あると思われるからです。
・般若の面のことでしょうか？

コメントの追加 [na6]: ・動作がおかしな文章になっています。
「席に座っていた咲が、天が入ってきた扉を閉めた。」
・いきなり「咲」と出てくると読者は困惑します。「友人の咲」とするなど、天にとってどんな人物かを書きましょう。

コメントの追加 [na4]: クラスメイト

「んもーう。咲ちゃんてば。そういうのは言わない約束でしょ」
「うわ、キモ」
「あぁ！？　なんつったコラァ！」
「いいから、さっさと席つきな」
適当にあしらう咲を横目に、天は自分の席に向かった。

コメントの追加 [na7]: どう気持ち悪いのか、セリフだけでなく天の様子を描写することでも表現したいです。

基礎編課題④【名前：　　】

キャラクター（主人公）を作り、これを中心にして物語のあらすじを作ってみましょう

どんなキャラクターですか？

男子高校生。自分ばかりが不運になる体質を持つ。周りからはよくいじられるが、むしろそれも愛嬌だと言われて友人は多い。本人もヘラヘラと流すが、多少はこの体質の改善を願う。

あらすじ（物語がどう始まり、どう展開し、どう終わるかを文章で書く）

不運体質の男子高校生は幸運体質でありながらも落ち込んでいる女子高校生に会う。聞くと何でも自分が幸運になればなるほど、周りが不幸になるとか。 男子高校生は己の体質を告白。体質をお互いで克服できないかと、二人は不思議な友人関係になる。 二人の関係が深まり、周りから付き合ってんのかと茶化される。男子高校生がそうじゃないと否定した途端、なぜか不運が薄くなる。けれどその日以来、女子高校生と距離が開く。 のちに、女子高校生が恋心を抱いていたと分かる。けれど幸運になると同時に男子高校生の不運が高まる。だから身を引いていた。 男子高校生もその恋に気づき、同じ気持ちだったと伝える。運なんて関係ないと振り切ると同時に、二人の運に対する体質は完全に消えていた。 そして二人は付き合ってエンド。

講評

正反対の性質を持つ二人がドタバタするお話は、王道でありながらも事件やエピソードを作りやすく良いアイディアです。今回は幸運と不運ということで、エピソードにもよりますが読者も共感しやすいのではないでしょうか。

女子高校生が幸せになると傍にいる男子高校生が不運になる→だから離れるロジックはわかります。しかし男子高校生の不運まで薄くなるのは説明がつきません。男子高校生は元々不運だからです。彼はどうすれば不運でなくなるのかを、はじめから提示してもいいでしょう。その条件は難しいもので構いません。

基礎編課題⑤名前【　　】

タイトル	未定
この話で一番書きたいこと	やりたいことには素直になっていいということ
この話で読者に感じてほしいこと	主人公の成長と、決意を固めるところ

世界設定	特殊能力を持って生まれる人がいる亜現代。
主人公の属する集団について	能力者専門の学園。時には依頼をされることもある。

キャラクター	性別／年齢	おおまかな設定
主人公	男／１８歳	他者の能力が分かる能力者。学園の学生だが、卒業後は研究者になる予定。
ヒロイン	女／１８歳	怪力の能力者。学園の学生。災害地域から人々を救う自衛隊に入る予定。主人公とはウマが合わない。
敵	男／２１歳	主人公が入ろうとしている大学の先輩。主人公の力を気に入っている。
ライバル	男／１８歳	主人公にことあるごとに突っかかる。能力者で現場で活躍することを生きがいにしているが、頭が悪い。
その他	男／３５歳	主人公が研究者になろうと思ったきっかけの科学者。よく相談にのってもらっている。

ストーリー

プロローグ（物語の始まり、主人公の特徴や世界の特徴がわかる原稿用紙１０枚から３０枚ぐらいのエピソード）	能力者たちが集まる学園で、研究発表会がある。主人公は頭の良さから様々な人に誘われるが、良い研究対象がない。するとヒロインを目撃。己の能力でも分からない強さに惹かれ、ヒロインに研究の協力を依頼。けれど気持ちが悪いと断られてしまう。
メインのエピソード（主人公が何に立ち向かって、何を成し遂げようとするか）	ライバルから喧嘩をふっかけられるが、寸でのところでヒロインに助けてもらう。ヒロイン自身も友達が少なく、研究発表の相手がいない。そこで利害の一致ということで二人は組むことになる。 ライバルはヒロインを狙っていたこともあり、更に執拗に絡むように。けれど主人公はライバルも研究発表に加えたくなり、結局三人で取り組む。 研究は成功。そこへ主人公の先輩【敵】が現れ研究をべた褒め。試しにと新たな課題を渡され、主人公は積極的に取り組む。けれどどんどんと体調不良になっていき、ヒロインとライバルは忠告するも聞かない。三人に亀裂が入る。

基礎編課題⑤名前【　　】

大どんでん返し１ （物語の真相など）	研究が完成するが、それは能力自体をこの世から消失させるものだった。しらずと加担されていた主人公はショックを受ける。 　ヒロインとライバルが主人公を助けに来る。能力で人々の助けになりたいという己の目的を思い出し、主人公は前を向く。
大どんでん返し２ （事件をどう解決するか）	ヒロインとライバルが追い詰めるが、敵は圧倒的。だがそれはフェイクで本当は主人公が敵に渡した研究課題を分解、解体していた。 　見えなかった敵の弱点が見えて、三人で敵を倒す。
エピローグ	主人公は研究員に、ヒロインは自衛隊に入って再会。ライバルは己を鍛えると一人で旅に出るといって海外へ。また会えるかなと二人で笑い合うのだった。

講評

主人公・ヒロイン・ライバルの関係が爽やかで好印象です。三人ドれぞれの持ち味が物語で活きるのが想像できます。キャラクターで物語どんどん引っ張っていけますね。

設定やエピソードを加えたい・変更したい点がいくつかあります

1、ヒロインの能力→怪力はわかりやすいですが、研究の対象としてどれほど魅力的か伝わりにくいです。ライバルも狙っていることですし、もう少し魅力的な能力を考えたいです。

2、敵はなぜ能力をこの世から消失させたいのか、理由をしっかり考えましょう。

3、一番書きたいことにある「やりたいことには素直になっていいということ」とてもいいと思います。しかし、エピソードのどこで描かれるのか見えてきませんでした。「能力で人々の助けになりたい」は至極真っ当な考えで、素直になる必要性が薄くなります。多少強引でも主人公がやりたいことを作ってあげたいです。